

あぶくま農学校農業体験学習「春」各団体で田植え

枝野小学校〜田植し〜

枝野小学校では5月7日(土)に全校児童48名により「あぶくま農学校」田植え体験が行われました。来年度は藤尾小学校と枝野小学校が統合を迎えるため、単独では最後の田植え体験となりました。五月晴れの田植え体験となりました。五月晴れの中、黒須市長の挨拶後、農協青年部枝野支部の指導のもと「つや姫」の田植えが行われました。今年度も新型コロナウイルス感染症防止の關係で下目黒小学校と一緒に出来ませんでした。学習田の約8割を午前中で終え、午後の下目黒小学校へ田植えのバトンを託しました。



下目黒小学校〜田植し〜

今年度は枝野小学校として最後の年ということもあり、2年ぶりに下目黒小学校児童14名と引率6名、生涯学習課4名が来角いたしました。午前中、タケノコ掘り、午後にはリレーのバトンを受けた田んぼでの田植えと田植えできないことを体験しました。田植え後は、隣の田んぼで徒競走を行い、泥だらけになりました。宿泊は地元の公民館(辻・畑中会館)を利用し、児童全員がドラム缶風呂を体験しました。2日目に山元町立中浜小学校(震災遺構見学)、道の駅かくた、コスモハウス等を見学し、秋の稲刈りには絶対また来るということを約束し、目黒区への帰路につきました。



北郷小学校

北郷小学校では5月9日(月)に5年生児童31名による「あぶくま農学校」田植え体験が行われました。「あぶくま農学校」入校式を校庭で行い、学習田にてJA青年部北郷支部による田植え指導の後、密を避けるため二班(田植え組、苗繋ぎ組)に分かれ交代で「つや姫」を植えました。田植え後に質問タイムがあり、午前中で終了しました。今年度は西根小学校と北郷小学校が統合して初めての田植え体験授業であり、児童達は泥の感触に戸惑いながらも一生懸命に田植えを行い、秋の収穫を楽しみにしていました。



4月からの公社職員体制です。

- 事務局長 赤坂 誠 (市より派遣)
- 次長 齋 正昭
- 主事 毛利 伝一
- 主事 加藤 厚志
- 主事 佐藤 裕美
- 主事 秋山 英輝 (市より公社担当)

事務所は、角田市役所西庁舎の北西にあります



農業振興公社だより

第27回総会(定時)開催される

公益社団法人角田市農業振興公社の第27回総会(定時)が令和4年5月30日(月)午後6時30分から角田市市民センター201会議室において、大河原地方振興事務所農業振興部長佐藤正広様、角田市議会議長渡邊誠様、角田市議会議務産業常任委員会委員長小湊毅様(臨席のもと)、会員28人(議決権行使書出席含め124人)が出席し、開催されました。

開会に当たり、黒須理事長から挨拶があり、今年産の主食用米の作付け目安の取組状況などを報告、作付け計画の積み上げでは県から示された作付け



△総会の様子

の目安を125haオーバーしている状況で米価への影響を懸念されていきました。一方公社の事業では、5月に目黒区の下目黒から児童14人を含む有志の方々が訪れ、枝野小学校の学習田で田植えをされたことに触れ、今後多くの交流事業が再開され、活発な交流ができることを期待されていきました。次に、佐藤農業振興部長、渡邊市議会議長よりご祝辞をいただいた後、宮城県議会議員八島利美様のメッセージを披露しました。

その後、角田地区の仙石利幸さんを議長に選出し議事を進行、まず「令和3年度事業の報告と正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録の承認について」を審議し承認されました。次に「公益社団法人角田市農業振興公社定款の一部変更について」を審議、定時総会の開催を会員の方々が農作業の大変忙しい「5月」から「事業年度終了後3か月以内」に変更するもので、承認されましたので、来年からは田植え終了後の6月に総会が開催できるようになりました。

「理事の選任(補欠選任)について」は、日下理事が共済組合の理事を退任することに伴い、公社理事の辞任届を提出されたことによるもので、後任に

◆ 発行 ◆

公益社団法人 角田市農業振興公社
〒981-1505 宮城県角田市角田字大坊41
電話 (02224) 63・2328
FAX (02224) 61・1521
URL http://www.kakunou.or.jp/ E-mail kakuda@kakunou.or.jp

は新たに農業共済組合の理事になられた西根の河村亨氏が選任されました。最後に舟山副理事長から閉会の挨拶があり、午後7時30分定時総会が終了しました。

※令和4年6月1日現在の役員

- 理事：黒須 貴氏、舟山健一氏
- 遠藤裕一氏、河村 亨氏
- 亀谷久雄氏、島津健一氏
- 渡邊俊博氏、堀米浩二氏
- 面川義明氏、熊谷繁寿氏
- 宋戸明美氏、森谷 茂氏
- 三浦 徹氏、永田眞由美氏
- 小野良恵氏
- 監事：齋藤巧一氏、齋藤 修氏

特別会員農産物生産者会議開催

角田の農産物を毎年楽しみにしていただいている特別会員の皆様にお届けするための生産者打ち合わせ会が5月26日、角田市農業振興公社会議室で開催されました。

この会議は、特別会員の皆様に喜んでいただける農産物を生産し、お届けしようとする生産者たちによる会議で生産者4名が出席いたしました。会議では、事務局から昨年度までの申込口数の推移及び申込者からのアンケート結果、農畜産物の品目別基準等の説明がなされました。アンケートの内

容については、「盛り沢山のセットで気に入っています」、「全品おいしくいただき懐かしい食卓の風景を思い出しました」、「とても満足しました」という意見が多く、また次回も購入したいとの意見をいただきました。今後利用者として生産者のコミュニケーションがとれるよう打ち合わせが行なわれました。昨年度は霜被害により梨をお届けすることができませんでしたが、今年度は生育に問題がないとの事で梨の募集もすることとなりました。最後に、特別会員事業にご賛同していただいている会員の皆様に、より満足していただけるよう生産者の皆様と角田市農業振興公社が一体となり対応して参りたいと存じます。今年度も募集案内を発送しておりますのでよろしくお願いたします。



△会議の様子



角田市農業経営者会議総会 2年ぶりに開催

令和4年6月21日、角田市農業経営者会議（森谷茂会長 会員47名）は、2年ぶりに「仙南シンケンファクトリー」を会場に総会が開催されました。

開会にあたり、森谷会長の挨拶があり黒須市長の祝辞を頂き、議長に枝野地区の門馬希道氏を選出し議事を進行いたしました。

初めに「令和3年度事業報告及び収支決算の承認について」を上程し、承認を受けた後、その他3つの議案についても一括上程し、異議なく承認され、最後に退会者の報告がありました。

農業経営者会議といたしましては、本年度もできるだけ多くの事業を実施するとともに安全・安心に農作業に従事していただけるよう健康増進活動として破傷風予防接種及び脳検診への助成、先進地視察研修に対する助成を計画するとともにセミナー・講演会の開催及び若手農業者同士の交流の機会等も設けたいと思っております。

今後とも個々の農業経営に対する新たな知識、情報等を会員の皆様に発信、共有しながら、角田市の農業発展に努めて参ります。

ソリマチ農業簿記操作研修会（決算・確定申告書作成編）を開催

～角田市農業青色申告会～

令和4年1月27日、角田市農業青色申告会は、角田地域担い手育成総合支援協議会と共催で農業青色申告会の会員を対象に、農業簿記操作研修会（決算・確定申告書作成編）を公社会議室で開催しました。

研修会には、午前・午後を合わせて17名が出席しました。ソリマチ株式会社より講師をお招きして、ソリマチ農業簿記11のソフトと確定申告作成ソフトをインストールした後、減価償却費や家事関連費の各種転送の方法、確定申告書作成ソフトへの取込方法など、青色申告決算書と確定申告書の作成及び出力までの研修を行いました。

受講された会員は、講師の先生にソフトの機能に関する質問をするなど、熱心に受講されていました。



△研修会の様子

地酒用い場産米消費拡大推進協議会（おろしの美酒を育てる会）

～書面議決により決議される～

地酒用い場産米消費拡大推進協議会（おろしの美酒を育てる会）36名は、新型コロナウイルス感染症の徹底を図るため、令和3年度総会に代えて、会員による書面議決を行いました。6月6日付けで総会議案（議決権行使書を会員に送付し、総会議決があったものとみなされた日）を令和4年6月17日とし、令和3年度事業報告及び収支決算についてなど3案件を書面議決した結果、全議案とも承認されました。

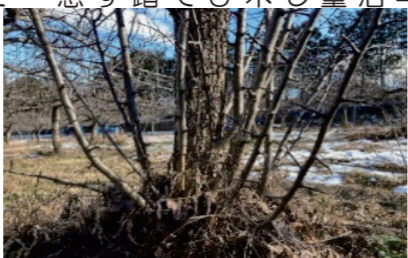
本年度も、新型コロナウイルス感染症の状況次第では、事業運営に大きな影響が懸念されますが、引き続き、会員制による『牟宇姫』と『かくだひやおろし』の二大ブランドの販売や会員の集い等の開催を予定しておりますので、みなさま楽しみにお待ちしております。



かくだの地酒を楽しむ会では、昨年大好評をいただきました。角田産の酒米「美山錦」を使用し、蔵王酒造で醸造する「ひやおろし」を今年も特別販売いたします。

〇復旧活動をする中で大変だったことはありませんか？

剪定した枝運びと、5、6m級のひこばえを梨園から引き抜くことですね。現在整備中の畑は0.9haで、3年～10年程放置されていた畑です。（場所によって放棄年数が異なる。）活動開始前は、大量の雑草が自生していたり、梨の木よりも大きいひこばえが生えていたり、足を踏み入れることすらできない状態でした。



大量に生えたひこばえ

剪定した枝は太いという量が多く、一人だけの力ではどうすることも出来ず、役所の方々に助けていただいたり、機械をお借りしたりしたことでやっとほ場外に運びだす事が出来ました。また、成長したひこばえは、トゲがありひこばえ抜き作業は危険を伴う作業でした。

〇最後に今後の活動についての意気込みをお願いします。

「耕作放棄梨園を稼げる梨園に！」その後は手がけた梨園をベースに規模拡大を図ればと思っております。新たな梨技術の習得、また農業に関連した町おこしイベントなども企画し、新たな農業の担い手づくりにも尽力していきたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

これまでの経過



作業開始前（12月）



剪定終了（4月）



新芽の育成・消毒作業（6月）

地域おこし協力隊吉川隊員へ

インタビュー！

角田市農業振興公社では、令和4年1月1日から地域おこし協力隊である吉川一利隊員の受入団体として活動を支援しています。吉川隊員は、耕作放棄地である梨園地の復旧活動を行っています。そんな吉川隊員に活動内容を聞いていきたいと思えます。



吉川隊員

〇地域おこし協力隊として活動している経緯を教えてください。

実は、元々地域おこし協力隊として活動するつもりではなく、梨で新規就農を考えた時に角田市で地域おこし協力隊になることが一番の方法だと思いい隊を選びました。

以前は利府町の地域おこし協力隊として梨の栽培・梨グッズの作成等を行っていました。利府町での協力隊の最終年度を迎え、「来年から新規就農で独立！」という意思があったものの最終的に梨畑を貸して下さる農家が一軒のみで面積も狭く、今後高齢により離農する農家があったとしても小さい面積の



の困り事でもある耕作放棄梨園を綺麗に手入れし病害虫飛散のリスクを減らせば、自ずと地域の方々との良好な信頼関係も構築できるのでは？と感じ、耕作放棄梨園復旧という道を選択し、協力隊卒業後にきちんと営農開始できる畑に戻す事を目標としています。